



東北学院大学 チャペル ニュース

春季特別伝道礼拝
特 集 号

第97号 2006年6月
東北学院大学宗教部
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
〒980-8511 (022) 264-6428

● 巻頭言 ●

弟子の足を洗う

イエス・キリスト

宗教部長 佐々木 哲夫

泉キャンパス礼拝堂正面のステンドグラスは、田中忠雄先生による作品で、下から上へ、十字架のイエス・キリスト、復活のイエス・キリスト、

ペテロは、恐縮して「わたしの足など、決して洗わないでください」と言います。すると、「もしわたしがあなたを

によって、ペテロとの関わりの本質が示されたのです。イエス・キリストは、しばしば、「たとえの行動」で教えようとした。この時は、洗足という行動を用いたのです。それはまた、これから起きようとしていたイエス・キリストの十字架と私たちとの関係をも明示するものでした。

「世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」と記されているからです。

天に昇るイエス・キリストが描かれています。田中先生による小さな水彩画の作品も本学にあります。その絵の構図は、ヨハネ十三章を題材としたもので、イエス・キリストがかがんで弟子ペテロの足を洗っているというものです。



うか。私は、病気があった父の足を洗ったことがあります。かがんで足を洗ったのですが、あまりいい感じではありませんでした。親でなければ絶対しないななど思ったものです。

イエス・キリストの洗足は、彼の有していた本質的な愛を象徴した出来事でした。それは、また、弟子だけでなく私たちとの間の出来事でした。即ち、イエス・キリストの十字架という出来事です。弟子の足を洗うイエス・キリストの姿に愛が示されています。そのような本質的な愛に私たちも生かされたいと願うものです。

弟子が先生の足を洗うのは普通なのですが、そのとき、先生であるイエス・キリストが弟子の足を洗ったのです。

洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」とイエス・キリストは答えました。足を洗うこと

ちゃんだった頃、風呂に入れて足を洗ったことがあります。小さな足を洗いながら、父の足を洗った時の印象を思

い出しました。しかし、この時は違いました。足を洗うことが楽しくさえ感じられたのです。既に亡くなっていた父には申し訳なかったのですが、愛情は、足を洗うことを楽しいことにしたのです。イエス・キリストの洗足は、後者でした。なぜなら、十三章一節に

「人生を変えるもの」

東京神学大学神学部教授

関川 泰 寛



●マルコによる福音書

一章一六〇節

ペトロ（シモン）をはじめとするガリラヤの漁師たちは、イエス・キリストに出会って、

網や舟など自分たちが一番大切にしているものを捨ててイエスに従いました。漁師の生業（なりわい）にとってもっとも大切なものを捨て、たった今出会ったばかりの一人の男に従うとは、無謀で向こう見ずな行為に思えます。

ペトロはやがて主イエスの

一番弟子として、行動を共に

し、苦楽を分かち合い、「あなたこそ、神の子イエス・キリストです」と主イエスに対して信仰の告白までしています。

しかし、主イエスが逮捕され、十字架上で処刑される事態に直面すると、ペトロは主イエスを裏切りました。大祭司に仕える女中がやってきて、「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた」と問われると、彼は即座に主イエスの関わりを打ち消しました。

主イエスは、ペトロを含め、

自分を裏切った人々の罪を赦します。主イエス・キリストによる罪の赦しを知ったとき、ペトロは、それまでとはまったく異なった生き方へと導かれるようになります。キリストの使徒となって、主の福音（喜ばし知らせ）を伝えることに生涯をかけたのです。

古代の教父アウグスティヌスは、思索の遍歴を重ねながら、最後にキリスト教信仰に至りつきました。ミラノに赴いたアウグスティヌスは、「取って、読みなさい」と歌う子どもたちの声を耳にします。アウグスティヌスは、「聖書を取って読みなさい」という意味に違いないと考え、傍らにあった聖書を開けてみます。ローマの信徒への手紙

一三章一二節以下の言葉が目

に飛び込んできたのです。「酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい」。

アウグスティヌスは、この聖書の言葉によって回心します。彼もまた、ペトロのように、「人生を変えるもの」が、キリストと結ばれ、キリストによって自分の酩酊と淫乱の罪を赦していただくことに他ならないと知ったのです。

アウグスティヌスの『告白』の冒頭には、「わたしの魂は、あなたのうちに憩うまでは、安らぎを得ません」という有名な言葉が記されています。わたしたちの人生が、荒れ狂う波に翻弄され、試練や苦しみにまったたくの可能性を閉ざ

されているかのように見えるとき、主イエス・キリストとの出会いを通して、本当の安らぎへと導かれます。それは奇跡でも言うべき出来事です。わたしの計画とか努力によるのではなくて、神の抗いがたい恵みとして、わたしたちの人生にもたらされます。

ペトロをはじめとする四人のガリラヤの漁師たちの無謀とも言える出発は、抗うことのできない神の恵みを表していると感じてよいでしょう。神は、わたしたちすべてにその時を用意して下さっているのです。あなたにもまた、「人生を変えるもの」との出会いが常に用意されているのです。



●ヨハネによる福音書

二一章一〜一四節

このテキストの終りに、このように記されています。「イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現われたのは、これで三度目である。」(一四節) この言葉にまず注目したいと思います。つまり主イエスが復活をして、自分を現わされたのは、もう三

度になるということです。この三度目ということ、どんなことが思い出されるでしょうか。

日本の諺にも三度目の正直というのがあります。二度起った、三度あったということは、物事が偽りやゼロや絵空事ではなく、まことだということでしょう。あるいは何か、偶然に起ったのではない、しかるべくして起ったとか、確かに起った、また今後も確かに起るであろうということ。三度あったということはその事の実なこと、また必ずあるということの意味します。また少し数字にこだわりますと、三という数は七、十もそうですが完全数と呼ばれるものです。これらの数は、一部分ではなく全体を表わし、全体をおおう数としてよく用いられます。とする三度というものは単に三度ではなく、どこでも、いつでもということになります。

そう考えると主イエスが死

者の中から復活した後、現われたのは三度だということに驚くべきことではないでしょうか。キリスト教のもつ福音の中心は、主イエスが死者の中から復活したことだと言うことができます。しかしそれはただの一度の事件や出来事に終わらず、その復活に触れる機会は三度もある、つまりそれは確か、どんな時、場所でも起りうるのだということです。何か揺ぎのない確かな事実だということ。

この三度というのは、このヨハネ福音書によれば、どういうことになるでしょうか。

一度目は主イエスが復活された場所、それはお墓でした。ユグダラのマリアという人がその場で復活した主イエスに会いました。それは思いがけない形で起こりました。この墓場というのは人間誰しもが避けることができない究極の終りの場所です。しかし非日常的な場所です。二度目は弟子たちが集まっているとこ

ろでした。彼らは共に集まって身を潜めていた、その場所でした。そこに主イエスは現われ、彼らの真ん中に立って「平和があるように」と語りかけられました。このような弟子たちの集まりの中に復活の主が現われたこれは言い換えれば礼拝のような場所でしょう。この場も大切です。ところで三度目とはどういう場所でしょうか。ペトロを初め弟子たちのごく日常的な場所です。彼らは漁師でした。漁がその生業でした。そしてこのテキストはその漁を終えて、主イエスが朝の食事を用意され、弟子たちと共に食卓を囲んだことが記されています。これは彼らの生活の場です。全く平凡な彼らの日常です。人の死を乗り越え、復活された主イエスは人の究極の場においても、また人との交わりにおいても、そして全く平凡な日常にも共におられて、私たちを励まして下さるのです。

春季特別
伝道礼拝 説教者紹介

◆関川泰寛先生

一九七七年慶応義塾大学経済学部、一九八〇年エディンバラ大学神学部卒業。一九八三年東京神学大学院博士課程前期課程修了。同年東北学院大学文学部助手。以後講師、助教授。一九九六年東京神学大学神学部助教授を経て、現在教授。

また一九九五年日本基督教団泉高森教会主任担任教師。一九八八年日本基督教団十貫坂教会主任担任教師。

【関川先生には五月一〇日に多賀城、土樋(夜)の礼拝をご担当いただきました】

◆橋爪忠夫牧師

一九七二年東京神学大学院博士課程前期課程修了後、日本基督教団泉大津教会伝道師、牧師。

一九七七年日本基督教団仙台東六番丁教会牧師を経て一九九五年、日本基督教団洗足教会牧師に就任し現在に至る。

【橋爪先生には五月一〇日に泉一一日に土樋(朝)の礼拝をご担当いただきました】

説教

神は言われた



学院長

倉松 功

●創世記 一章一〜三節、二六〜二八節

一章一〜三節

1 初めに、神は天地を創造された。2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

二六〜二八節

26 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造

ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配せよ。」

27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

神が言われた、と創世記冒頭に記されています。「光あれ」と神が言われると光があったと記されています。そして、創造のみ業の最後に一章二六・二七節ですが、「神は言われた…、神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」と記されています。

昔から、神は何もない所から、無から、天地を創造されたといわれてきました。しかし、無からの創造、それだけでしようか。そうではないことを新約聖書は伝えています。ご一緒にヨハネによる福音書一章一〜三節を読んでみたいと思います。今読みましたヨハネによる福音書によります

と、はっきりと「万物は言によって成った。成ったもので、言によらずになつたものは何一つなかった」とあります。そこで、もう一度先程の創世記に注目してみます。「神は光あれと言われた。そうすると光があった」です。創造の最後の人間の創造でも、「神は言われた。そして、男と女に創造された」です。そのように、またヨハネ福音書に記しているように、万物は神の言葉によってなつたのです。神は、神ご自身の言葉によって、天地をそして、人間を造りになされたのです。

ところで、ヨハネ福音書は一章一四節には、万物を造られた神の言は肉となって、わたしたちの間に宿られたと、

キリストの誕生について記されています。このように、ヨハネ福音書ははっきりと、万物を創造された神の言葉が、主イエス・キリストであると言っております。しかも、ヨハネだけではありません。コロサイの信徒への手紙一章一六、一七節に、「万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました」と記されております。(なおヘブライ人への手紙十一章三節参照)

このように、万物は神の言葉である御子主イエスによって創られたのです。これが神の言葉と言われた主イエスと創造との関係です。次に、今朝のテキストであ

る創造の物語の中で、特に人間に關わる部分について、み言葉を学びたいと思います。創世記第一章二六節です。神は言われた「われわれにかたどり我々に似せて人を造らう。：二七節神はご自分にかたどって人を創造された。男と女に創造された」とあります。われわれにかたどりと複数になっ

て、神の似姿として男と女に創られたと理解することができま

あるいは、進化だけでなく、突然の変異も加わってそうなたというかも知れません。しかし、聖書はそうではありません。例えば、あのノアの箱舟のノアに対して神は言われたとして、創世記の九章に、「人の血を流す者は、人によって自分の血を流される。人

の人間に対する創造の愛と呼ぶことができるのではないかと思います。

こんなエピソードもあります。明治の始めに、東北・北海道を旅行したスコットランドの牧師の息女イサベラ・バードは、彼女を乗せた人力車の車夫について、「この人もまた神に似せて創られた人間である」と母国に書き送っております。

「神は言われた」をはじめ、ご自分も単数で、すべて単数です。注解者のいうように、このわれわれには、複数の神が考えられていると考える必要はなさそうです。それから、かたどりと、似せてと同じようなことが二六節にいわれ

て、神の似姿として男と女に創られたと理解することができま

あるいは、進化だけでなく、突然の変異も加わってそうなたというかも知れません。しかし、聖書はそうではありません。例えば、あのノアの箱舟のノアに対して神は言われたとして、創世記の九章に、「人の血を流す者は、人によって自分の血を流される。人

の人間に対する創造の愛と呼ぶことができるのではないかと思います。

こんなエピソードもあります。明治の始めに、東北・北海道を旅行したスコットランドの牧師の息女イサベラ・バードは、彼女を乗せた人力車の車夫について、「この人もまた神に似せて創られた人間である」と母国に書き送っております。

「神は言われた」をはじめ、ご自分も単数で、すべて単数です。注解者のいうように、このわれわれには、複数の神が考えられていると考える必要はなさそうです。それから、かたどりと、似せてと同じようなことが二六節にいわれ

て、神の似姿として男と女に創られたと理解することができま

あるいは、進化だけでなく、突然の変異も加わってそうなたというかも知れません。しかし、聖書はそうではありません。例えば、あのノアの箱舟のノアに対して神は言われたとして、創世記の九章に、「人の血を流す者は、人によって自分の血を流される。人

の人間に対する創造の愛と呼ぶことができるのではないかと思います。

こんなエピソードもあります。明治の始めに、東北・北海道を旅行したスコットランドの牧師の息女イサベラ・バードは、彼女を乗せた人力車の車夫について、「この人もまた神に似せて創られた人間である」と母国に書き送っております。

青葉が目まぶしい季節に
なりました。新入生にとって
は、五月病から立ち直って自
分のペースをつか
みかけるチャンス
です。今年泉から
土樋に移った三年
生の諸君も、新し
いキャンパスにだ
んだん慣れてきた
のではないでしょう
か。四年
生の皆さんは、残り僅かとなっ
た学生生活を悔いのないよう
に過ごして下さい。



土樋キャンパス
主任 教授 北

土樋に移った三年生の諸君も、新しいキャンパスにだんだん慣れてきたのではないのでしょうか。四年生の皆さんは、残り僅かとなった学生生活を悔いのないよう

に過ごして下さい。ところで宗教部では、学生の皆さんがよりキリスト教に
関心を持ち、聖書を学ぶことができて
いるようにと
いう願いを
込めて、聖書研究会や

を設けています。どうかこの
ような機会を積極的に活用し

て下さい。それから、毎日の
礼拝を生活のリズムのために
うまく生かして下さい。チャ
ペルで賛美歌と祈りと聖書の
言葉にリフレッシュされて、
生き生きとしたキャンパスラ
イフを送りましょう。

多賀城キャンパス



多賀城キャンパス
主任 教授 野村

多賀城キャンパスは、入学式のところは、桜が大変きれいでしたが、すっかり緑の季節になりました。大学の勉強は、高校と違って自主的に取り組み、単位を修得しなくてはなりませんので、多少、戸惑いもあるかもしれませんが、新入生は新しい環境に早く慣れて、充実した毎日を送って欲しいものです。

また大学礼拝も大勢の新入

各キャンパスのメッセージ

生を迎えて始められました。それぞれの司会の先生たちは、学生諸君たちに来るだけ良いメッセージを語ろうとしていますので、これからもキャンパスに午前中の時には、遅刻しないように心がけ、礼拝に出る習慣を大切にして下さい。なお、チャペルの一階の小部屋で火曜日のお昼に、数名

で聖書を読んでいます。今年度は、キリストの「たとえ話」を学んでいます。キリスト教や聖書について関心のある人や質問のある人も、また誰でも参加できます。ぜひ一緒に短い一時ですが、ここに来てください。軽食付きです。

取によって体が成長するのは目に見えますが、目に見えない心も精神的に大きく成長するものです。



泉キャンパス
主任 教授 永井 義之

新緑が目まぶしいと感じられるこの頃、新入生諸君が大分入学当初と比べると大学生活に慣れてきたようです。日々の礼拝も多くの学生諸君の参加を得て守られていることを喜んでいます。当初は緊張して何が始まるのかといった雰囲気でしたが、だんだん礼拝の様子がわかってきて一種の「慣れ」が見られるような気もいたします。礼拝は聖書の言葉を聞く機会ですが、これはよく毎日の食事にもたとえられます。生きるのに不可欠な食事は、毎日決まった

時間によほどのがない限り食べるといふ行為を繰り返していきます。毎回ご馳走というわけではなくても、とにかく食べるのです。生きていくのに欠かせないからです。同じように礼拝における「神の言葉の摂取」も日々の欠かせないものとしてわたしたちの心の習慣となるよう心身を整えたいものです。食物の摂取によって体が成長するのは目に見えますが、目に見えない心も精神的に大きく成長するものです。

Loving Enemies (Luke 6 : 27~36)



文学部 デビッド・N. マーチー

One of Jesus' most distinctive teachings was his command to love our enemies. A Christian truly follows Christ when he or she shows love to a person that doesn't like him or her. Have you ever tried to do something good for a person you don't like? At first, it is very difficult. You may feel embarrassed. You may feel that other people think you are foolish to do something good for someone who does bad things to you. Nevertheless, Jesus said that if want to be his disciples, this is what we must do. Jesus, of course, understood human nature very well, and he certainly knew that loving enemies would not be easy in the beginning.

Well, then, what was this strange ethic of love about which Jesus spoke? It doesn't sound like the kind of love we have for a good friend, or a family member. Those kinds of love seem to occur naturally; they just happen. Loving enemies, however, is different. To love an enemy is to love someone about whom we do not have a good impression or even a good feeling! This kind of love takes work, sacrifice, and courage. It means to do good things for our enemies, even if it involves sacrifice on our part. To give us an example of something specific we can do, Jesus said that when our enemies need something, we should lend it to them without expecting anything in return! Loving enemies was undoubtedly just as strange an ethic for Jesus' era as it is for ours.

The results of loving an enemy are not always predictable. Believe it or not, doing good and loving acts for enemies can sometimes cause them to become even angrier with us than they were before. However, doing a good and loving act for an enemy can also change that person's life. It might even turn out to be the beginning of an enduring friendship. If there are people in your own life who do not seem to like you, try doing something good for them. You might wind up with more friends than you ever thought possible. Furthermore, by creating friendships through acts of love toward enemies, you will be bringing a little more peace to a world that is all too often obsessed not with loving enemies, but with fighting them. Indeed, it takes a great deal more courage to love an enemy than it does to fight against him.

創立一二〇周年を迎えた東北学院が催す記念行事の最後を飾るのは、二月二三日(祝・土)に行なわれる『メサイア』のコンサートです。作曲者のヘンデルはドイツに生まれイギリスに帰化しました。聖書から引用したテキストを用い、合唱独唱と管弦楽によりその物語を奏でる「オラトリオ」作品の中でも際立って有名なのが『メサイア』です。さて今年生誕二五〇年を

東北学院創立120周年 記念コンサートのご案内



大学オルガニスト

今井 奈緒子

第32回 サマー・カレッジのご案内

学生そして教職員の皆さん、宗教部主催による恒例の『サマー・カレッジ』の時期が近づいてきました。秋保の大自然の中で、学生・教職員が数日間の生活を共にし、聖書や讃美歌に親しみ、人生の色々な問題を語り合いたいと思います。

「秋保リゾート ホテルクレセント」を会場とし、リラックスした楽しいプログラムを数多く準備しております。一人でも多くの方々がこの『サマー・カレッジ』に参加して、有意義な時間を共有し、数多くの『出会い』を体験されますよう念願して、ご案内いたします。

■日 時 7月25日(火)～27日(木) 2泊3日
(文・経済・法・教養学部対象)
8月4日(金)～5日(土) 1泊2日
(工学部対象)

秋保リゾート ホテルクレセント

■プログラム 開会礼拝、基調講演、みんなで歌おう、晩祷、グループトーク、スポーツ(ソフトボール、バレーボール)共に祈ろう、閉会礼拝

■対象 学生・教職員

■参加費 8,000円

■申込締切 7月15日(土)

(詳しいプログラムと申込書は下記申込先と各キャンパス礼拝堂に掲示・配布します)

※ 申込先

- ・土樋キャンパス 本館2階・宗教事務課
- ・泉キャンパス 1号館2階・庶務係
- ・多賀城キャンパス 1号館2階・庶務係

編集後記

春の特別礼拝の原稿を講師の方々からいただき掲載することになりました。聞いたものを改めて文字として読むと違った印象を持つかもしれません。紙面を通してもう一度味わっていたければ幸いです。

(NA)

迎えるモーツァルトは、バッハやヘンデルに心酔するズヴィーテン男爵の求めに応じ、ヘンデルのオラトリオ四作品を編曲しました。一七八九年三月、エステルハージ伯爵邸でモーツァルト自身が指揮をした編曲版メサイアが、私たちの泉キャンパスに鳴り響こうとし

ています。指揮は世界的オルガン・チェンバロ奏者の鈴木雅明氏。彼により一九九〇年、特にJ・S・バッハの宗教作品を理想的に上演・普及させることを目的に結成された「ベッハ・コレギウム・ジャパン」に、ヨーロッパで活躍中のソリストを加えての特別

演奏会です。東北学院では例年、大学各キャンパスと土樋での公開クリスマス礼拝で、メサイアから主としてキリスト降誕の部分抜粋して演奏しています。今回は序曲から降誕、受難を経て壮大なアーメンコーラスに至る全曲が、聴き慣れた英語ではなくドイツ語により、そしてヘンデルの約七〇年後に生を受けたモーツァルトの味付けと、ベッハ・コレギウム・ジャパンの鮮やかな演奏により新たな姿を浮かび上がらせることでしょう。

オーバーホールを経て蘇るパイオルガンの響きと併せてご期待ください。

◆チケット
東北学院大学生協全店で取扱中。

全席自由・三五〇〇円
(当日四〇〇円)

◆お問い合わせ先

東北学院大学宗教音楽研究所
〇二一・三七五・一一八五